

1. はじめに

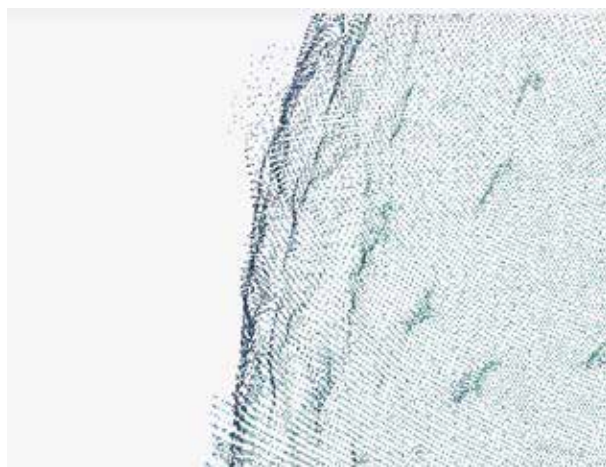
なぜこの資料をつくったのか

3D スキャナーの購入で最も重要なのは、**正しい機種選定**です。これまで 3D スキャナーは高額な機材が中心で、購入前にデモや専門家からの説明を受けるのが一般的でした。しかし、近年は低価格化が進み、オンラインで手軽に購入されるケースも増えています。その結果、「**思ったように使えない**」「**データが取得できない**」といったトラブルも増え、3D スキャナー全体へのマイナスイメージにつながっているのが現状です。

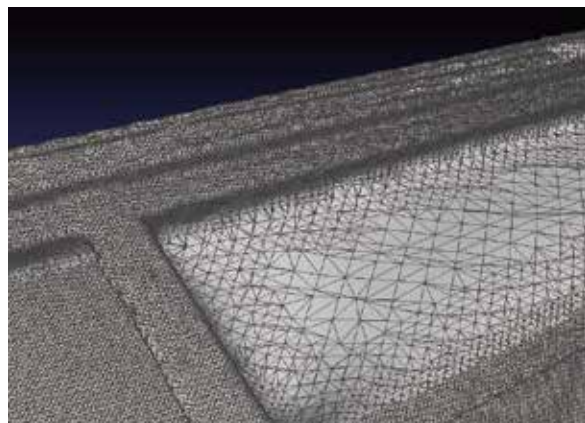
本資料は、そうした誤解や失敗を防ぎ、取り扱い機種に限らず、正しい選定のもとで 3D スキャナーを安心して活用していただくために作成しました。

3D スキャナーとは？

3D スキャナーとは実際にあるものをデータ化するための装置です。3D スキャンしたデータは点群と呼ばれる点の集まりとして取得されます。取得した点の集まりは三角形の集まりに変換されメッシュ（ポリゴン）データとして出力されます。stl や obj といったデータで出力することができます。



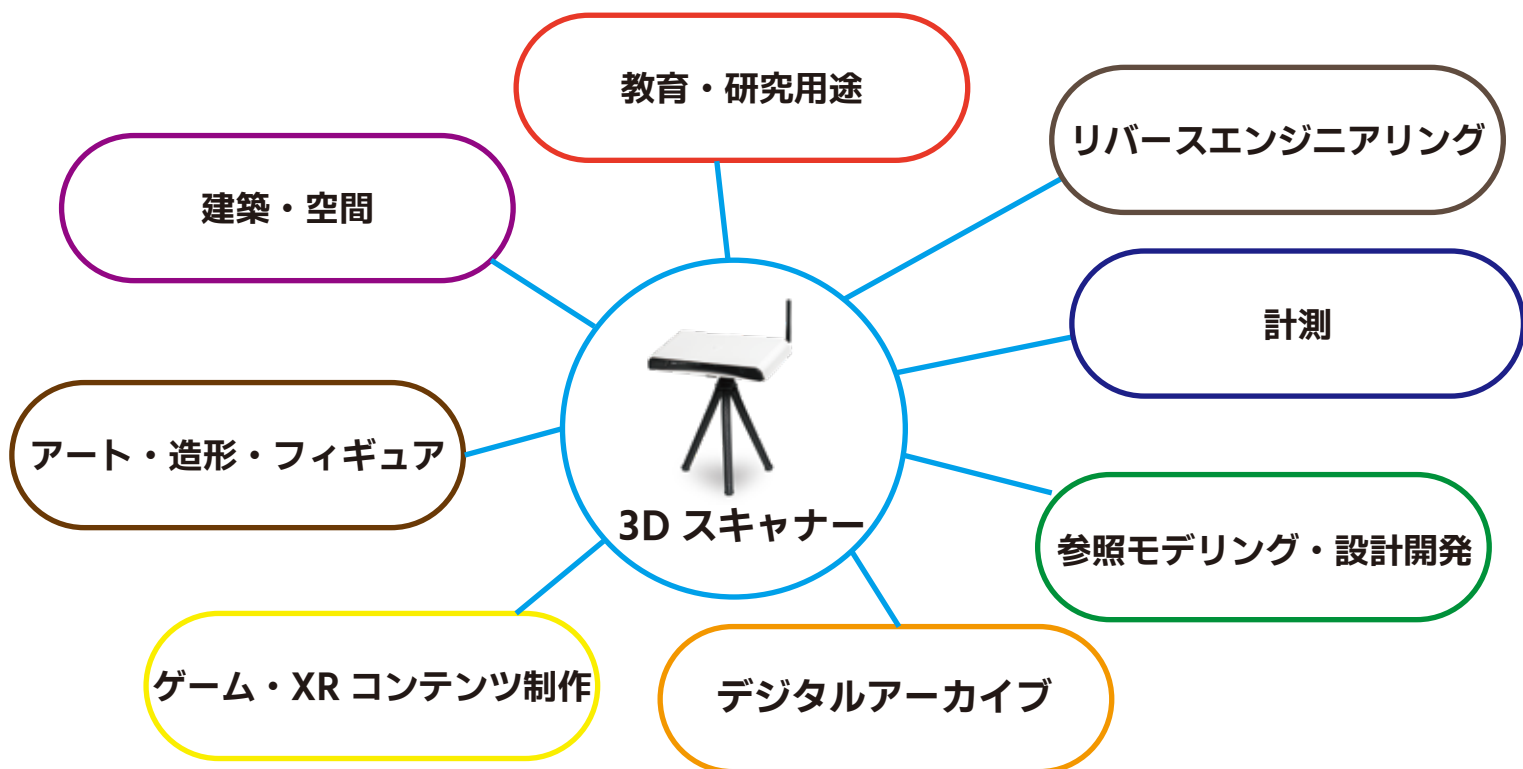
点群データ



メッシュデータ

3D スキャナーの活用シーン

3D スキャナーの活用シーンは多岐に渡ります。



教育・研究用途

工学、建築、生物、文化財など幅広い分野で、観察・解析・デジタル教材に活用。最近では中高生のものづくり教育などにも

リバースエンジニアリング

実物の部品をスキャンして図面やデジタルモデルを再構築。既に販売製造品の金型や部品の再製造に。

計測

3DCAD データと 3D スキャンデータを重ね合わせて測定や傾向検査に。CMM より簡単に計測できて、手計測より人による差がでにくい。

参照モデリング・ 設計開発

既存の設備や試作モデルをデジタル化し CAD に取り込み設計に活用。義足やオーダーメイドシューズなどにも活用できる。

デジタルアーカイブ

歴史的な遺品や遺跡を 3D スキャンして 3D データ化。オンラインで公開することで世界中からアクセスできます。

ゲーム・ XR コンテンツ制作

3D アセットを 3D スキャンデータから作成。ゲームエンジンに使用はもちろん AR や VR 上で表示、制作時間を削減。

アート・ 造形・フィギュア

アート作品の 3D データ化や 3D プリンタでの造形、フィギュア作成の原型作成への活用も。

建築

建物の内部を 3D スキャンして図面と違う部分を 3D で確認。CAD や BIM 化にも使用される。

2.3D スキャナーの基礎知識

3D スキャナーの種類

3D スキャナーの方式は各メーカーが様々な技術を採用しているのでカテゴライズは難しいですが、代表的な物をカテゴライズすると以下のようになります。

種類	特徴・仕組み	メリット	デメリット	主な用途例
レーザー式	レーザーを照射して断面の形状をカメラで読み取りデータ化する	・高精度、高速スキャン 黒色、光沢に強い	・高価格帯が多い	工業製品の検査、リバースエンジニアリングなど
		・屋外でも使いやすい	・マーカ―が基本的には必須	
構造光式	パターン光(ストライプなど)を投影し、歪みをカメラで取得して3D形状を解析	・比較的高精度	・環境光の影響を受けやすい	製品開発、造形、教育、フィギュア制作など
		・スキャンが速い	・黒・透明・光沢素材に弱い	
		・多くの低価格モデルに採用		
フォトグラメトリ	複数の写真から共通点を抽出し、立体的な形状を再構築(カメラ+ソフト)	・ソフトウェアが無料から	・処理に時間がかかる	遺跡記録、アート、ゲームアセット制作など
		・高解像度のテクスチャが得られる	・スキャン精度はやや低い	
TOF,位相差	レーザー光を対象に照射し、反射光の位相差や時間から距離を特定	・大規模な3Dスキャンができる	・高価格帯が多い	土木、文化財測量など
		・屋外でも使いやすい	・光沢物、透過に弱い	
接触式(CMMなど)	プローブで物体に実際に触れて形状を測定する方式	・非常に高精度	・手作業が必要	精密部品の検査・計測
		・反射や透明の影響を受けない	・小型対象に限られることが多い	
スマホ型/LiDAR	スマートフォンやタブレットに搭載されたLiDARセンサーやAR技術でスキャン	・手軽で持ち運び可能	・解像度・精度が低め	アイデアスケッチ、ARモデル作成など
		・アプリで簡単操作	・用途が限られる	

最近はこの技術を複合した 3D スキャナーも数多く登場しています。3D スキャナーの選定が難しい理由として方式による価格差は見られないケースも多いということです。次は価格別の特徴を見ていきましょう。

価格帯の目安

3D スキャナーは現状数万円から数千万円と非常に大きな幅があります。当然価格差があれば性能差もあります。とはいえ何がいったいそこまで大きな価格差を生んでいるのでしょうか。また、価格差＝性能差といえるのでしょうか。

低価格帯 (50 万円以下)

50 万円以下の 3D スキャナーは性能差が非常に大きく、「全くスキャンできない機種」から「中価格帯と遜色ない性能を持つ機種」まで幅広く存在します。

特に 10 万円以下のモデルでは、価格に惹かれて購入したものの「ハズレ機種」だったというケースも少なくありません。

また、3D スキャナーにはそれぞれ得意なスキャンサイズ（対象物の大きさ）があります。低価格帯ではこの相性を誤ると、

- ・何も画面に表示されずスキャンできない
- ・ノイズだらけで使い物にならない

という結果につながることもあります。



中価格帯 (50 万～ 400 万円)

この価格帯になると、極端に性能が低い「ハズレ機種」はほとんど見られなくなり、安定した性能のモデルが多くなります。

ハイブリッド光源（複数のスキャン方式を併用）を搭載したモデルも登場し、対応できるスキャンサイズの幅が広がるのも大きな特徴です。

また、このクラスからは空間スキャン（建物・室内・大型設備など）が可能な実用的なモデルも選択肢に入ってきます。

高価格帯 (400 万円以上)

この価格帯の 3D スキャナーは、主に高精度な計測用途に特化しています。

部品検査・品質管理など、工業レベルの精密測定を必要とする現場で使用されることが多くなります。また、機種ごとに精度証明書を発行しており、国際基準に基づいたトレーサビリティが確保されているので、信頼性の高い計測が可能です。測定ソフトと連携してソフト内での操作ができたり、プローブ連携機能を搭載している機種も少なくありません。

低価格帯で性能を判断する 5 つのポイント

①トラッキング

ハンディタイプの 3D スキャナーにおいて、スキャン精度や使いやすさを大きく左右するのが「トラッキング」です。これは、スキャン中に撮影した面と新たに撮影する面をリアルタイムで正しく繋ぎ合わせる機能で、トラッキングが不安定だと、正しい 3D データが取得できません。

特に低価格帯のハンディスキャナーでは、このトラッキング性能の差が顕著で、機種選びの重要な判断材料になります。操作のコツも影響しますが、機械とソフトウェアの性能による部分も大きく、スペック表だけでは判断が難しいため、購入前にデモを確認するのが確実です。

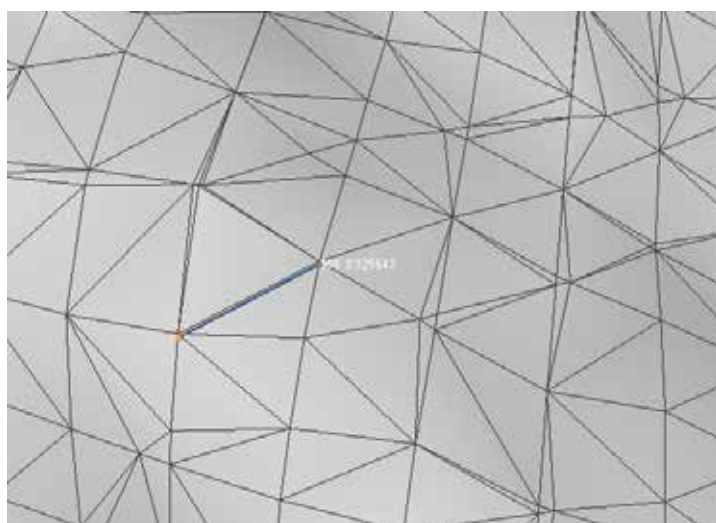
固定式スキャナーはワンショットずつ位置合わせを行うため、ここは関係ありません。

②解像度

3D スキャナーにおける「解像度」とは、スキャンされた点群データの点の密度（ポイント間隔）を指し、写真でいうピクセルに近い概念です。解像度が細かいほど、ディテールの再現度が高くなり、より精密な 3D モデルが得られます。

ただし、解像度が高くなるとデータ容量も大きくなり、CAD ソフトなどでの取り扱いが重くなることがあります。そのため、実際の作業内容に応じて適切な解像度を選択することが重要です。

多くのスキャナーでは、解像度はスキャン時に設定できるため、あらかじめその機種の最大解像度（限界値）を把握しておくことが、目的に合った選定には欠かせません。

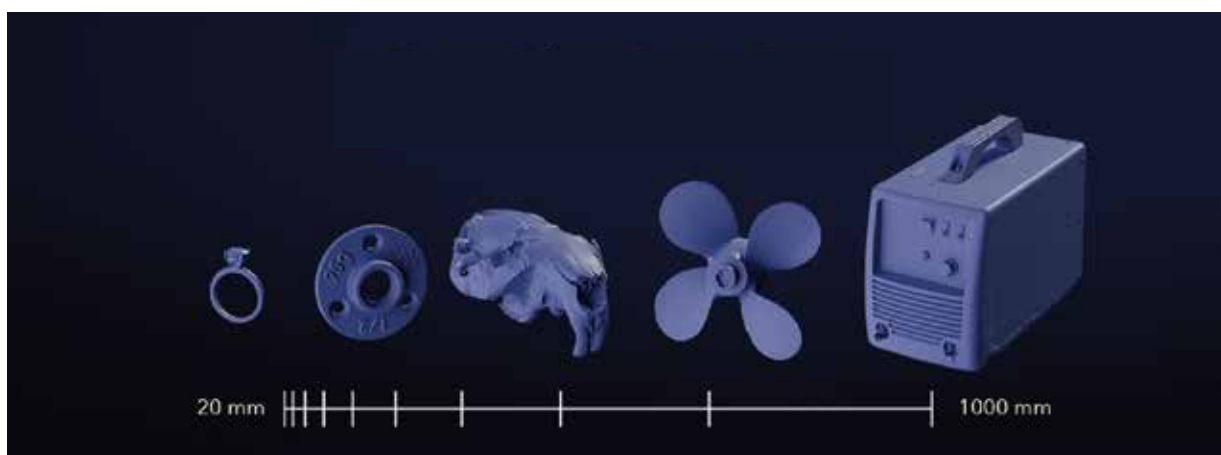


3D 解像度（ポイント間隔）

③スキャンサイズ対応範囲

低価格帯の 3D スキャナーを検討する際は、対応可能なスキャンサイズが非常に重要な選定ポイントとなります。一般的にハンディタイプは大型の対象物、固定式スキャナーは小型の対象物を撮影するのに適していると考えられますが、近年では小型物にしか対応できない低価格のハンディスキャナーが数多く見受けられます。しかしながら、これらの機種はあまり推奨できません。

その理由としては、小型物への対応を前提としたハンディスキャナーでは焦点距離を短く設定する必要があるため、1 回のスキャン範囲が著しく狭くなります。結果としてトラッキングが不安定になりがちで、大型の対象物はもちろん、小型のものに対しても十分なディテールを捉えられないという中途半端な状況に陥りやすいのです。また、このタイプの機種が「極端に高精度」を謳っている場合でも、規格上の数値を巧みに用いた実用性に乏しいスペックであるケースが少なくありません。



Matter and Form THREE の対応サイズ例

④カラスキャンの色再現性

3D スキャナーにはカラスキャンができる機種があります。カラスキャンは製造業ではあまり重要ではないかもしれませんが、CG やデジタルアーカイブでは必要な物となります。カラー再現度は機種によって大きく異なるので必購入前に確認しましょう。

また、製造業でもカラスキャンができることにより一部の機種ではカラートラッキングができるようになるため、水性ペンなどでしるしをつけてあげるだけでトラッキングができるようになります。このことで左右対称なモデルや形状に特徴がないようなモデルもマーカーを貼らずにスキャンができます。

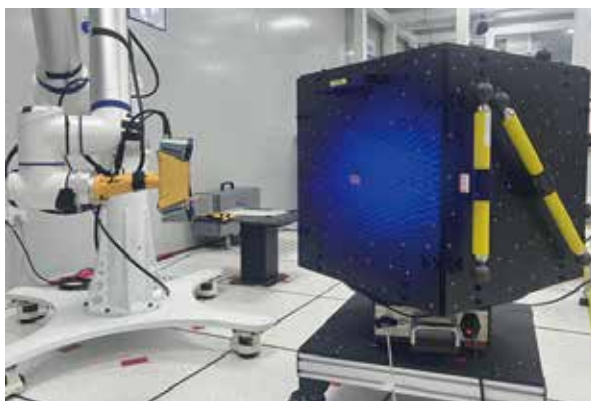
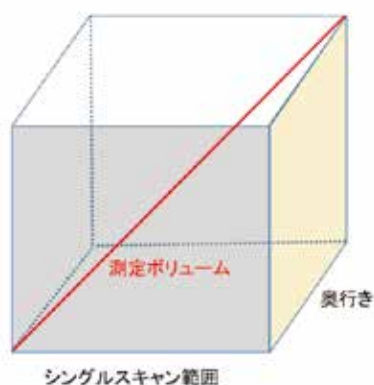
④ソフトウェアの使いやすさ

これは全てのデバイスに置いて共通ですが、ソフトウェアの使い方は重要な要素です。3D スキャナーは大容量の 3D データを取得するため、どのようなパソコンが必要か、処理はスムーズに行くかという所も重要な選定ポイントにあげられます。また、3D スキャン後の後処理もある程度 3D スキャン側でできるとそのあとの工程が楽になるので選定基準にあげておくといよいでしょう。

低価格帯で注意すべきポイント！

スペック精度をあてにしていけない

3D スキャナー購入時によく見られる失敗がスペック表の精度だけをみて購入して、思ったよりも撮れず、実際にやりたいことができなくなってしまうという失敗です。低価格帯の多くのメーカーは精度と表記する部分を VDI/VDE2634 に基づく結果として表記しています。これに使われる試験片にはサイズに規定があり、対象物の長さや大きさは測定ボリュームの空間対角線に依存します。つまり、測定ボリューム（シングルスキャン範囲 × 奥行き）が小さい機種になると測定対象物自体が小さくてよいという結果になり、当然誤差も比例して小さくなる傾向にあります。スペック表に載せられている精度に「何ミリあたりの誤差」といった表記がないのはこのためです。そのため、異なるサイズの物を撮った結果を同列に比較することは難しく選定の際に参考値として信用できる値とは言い難いです。あくまで、この規格は製造した測定システムが、仕様書に記載された性能（特に最大許容測定偏差）を満たしているかを確認するための受入試験として実施されるものになります。また、メーカーによっては独自試験結果を記載していることあるので、スペックの値ではなく実際のデータを見て、**やりたいことができるのに十分な精度かどうか**で判断しましょう。



VDI/VDE2634Part3 の試験例 *

※参照：<https://www.einstar.com/ja/blogs/news/what-is-accuracy>

3. 価格表&性能比較表

表で見る！低価格 3D スキャナー一覧表

低価格 3D スキャナーメーカー製品をまとめました。シリーズ上位機種がある場合はそちらのみを掲載しております。

独自調査によるものですので正確な情報は代理店、メーカー等の公式ホームページ等で再度ご確認ください。※価格は 2025 年四月時点でのホームページ等での値引き前の販売価格となります。

メーカー名	3DMakerPro ^{*1}					Revopoint ^{*2}				
製品名	3DMaker Pro Seal	3DMaker Pro Mole	3DMaker Pro Magic Swift Plus	3DMaker Pro Lynx	3DMaker Pro Moose	Revopoint MIRACO Plus	Revopoint RANGE2	Revopoint POP 3 Plus	Revopoint MINI2	Revopoint MetroX
価格(税込)	¥97,900	¥99,000	¥135,300	¥135,301	¥104,500	¥287,000	¥116,000	¥98,900	¥132,000	¥159,400
精度	0.01mm	最大0.05mm	最大0.1mm	0.1mm	0.03mm	最大0.04mm、 フォトグラムメトリック 長さ精度0.02 mm + 0.05 mm × L (m)	最大0.1mm	最大0.04mm	最大0.02mm	最大0.01mm
解像度	0.05mm	0.1mm	0.25mm	0.3mm	0.07mm	情報なし	0.1mm	0.05 mm	0.02mm	0.05 mm
光源	ブルーライト	NIR(近赤外分光法)	LED	NIR	ブルーライト	赤外線構造光、光学ズーム、 フォトグラムメトリック計測	クラス1赤外線	デュアルカメラ赤外線構造化光	クラス1ブルーライト	マルチラインブルーレーザー&フルフィールド構造化光スキャン
シングルスキャン範囲	100mm × 75mm	200mm × 100mm	400mm × 250mm	250mm × 400mm	200mm × 100mm	28 × 53mm (距離100mm) ~ 975 × 775 mm (距離1001mm)	220 × 425 mm (距離400 mm) 860 × 1380 mm (距離1300 mm)	61 × 68 mm (距離150 mm) 244 × 180 mm (距離400 mm)	52 × 64 mm (距離120 mm) 168 × 132 mm (距離250 mm)	160 × 70 mm (距離200 mm) 320 × 215 mm (距離399 mm)
ワイヤレス	×	×	△(バッテリー対応)	情報なし	×	○	△(バッテリー対応)	△(バッテリー対応)	△(バッテリー対応)	×
カラースキャン	可能	△(拡張サポート)	△(サポート可能)	△(拡張サポート)	可能	可能	可能	可能	可能	△(ターンテーブルモードのみ)
得意とするサイズ感	小型	小型～中型	中型～大型	中型～大型	中型	小型～中型	小型～大型	小型	小型	小型

メーカー名	Creality ^{*3}			SHINING3D		MAF
製品名	CR-Scan Ferret Pro	CR-Scan Otter	CR-Scan Raptor Pro	EinStar	EinStar Vega	MAF THREE™
価格(税込)	¥62,200	¥137,999	¥299,000	¥148,500	¥330,000	¥290,400
精度	最大 0.1mm	最大 0.02mm@ 60mm	0.02mm	情報なし	情報なし	最大 0.033mm (Z精度)
解像度	0.16mm	0.05～ 2mm	情報なし	ポイント 間隔0.1 ～3mm	0.05mm～	0.037mm
光源	NIR(近赤 外分光法)	IRストラク チャードラ イト	ブルーラ イトレー ザーパラ レル7本 クロス22 本 NIR	VCSEL	MEMS VCSEL	DLP MEMSス トラクチャ ードライト
シングルス キャン範囲	560*820 mm	1350×84 0mm@100 0mm	270×170 mm(距離 300mm) 341×232 mm(距離 400mm) 397×290 mm(距離 500mm)	最大視野 434×380 mm(最適 作動距離 時)	情報なし	155.52× 115.3mm (距離 220mm) 273.72× 202.90m m(距離 400mm) 480.13× 356mm (距離 700mm)
ワイヤレス	△アクセ サリーあ り	△アクセ サリーあ り	△アクセ サリーあ り	×	○	△(パソ コンとの接 続はワイ ヤレス可 。要電 源)
カラスキャン	可能	可能	可能	○	○	○
得意とする サイズ感	中型	小型～中 型	小型～中 型	中型～大 型	小型～大 型	小型～中 型

※参照：1.<https://flashforge.shop-pro.jp/?mode=cate&cbid=2545187&csid=5>
2.<https://www.revopoint3d.jp/>
3.<https://store.creality.com/jp/collections/scanners>

メーカー別強みと弱み

3DMakerpro

- 強み**
 - ・低価格帯の中でも低価格
 - ・機種が多い
 - ・付属オプションが豊富にある
- 弱み**
 - ・ソフトウェアの性能がやや落ちる
 - ・トラッキングが弱め

Revopoint

- 強み**
 - ・性能と価格のバランスが良い。コスパが高い。
 - ・ワイヤレスモデルなど豊富なラインナップ
 - ・マーケティングがうまい
 - ・ソフトウェアが使いやすい
- 弱み**
 - ・ラインナップが多い分機種選定が難しい
 - ・トラッキングが弱い

Creality

- 強み**
 - ・この価格帯ではめずらしいブルーライトクロスレーザー機種がある。
 - ・価格レンジに幅があり予算に合わせて購入ができる
- 弱み**
 - ・機種にもよるがディティールの再現性が劣ることがある。
 - ・ソフトウェアが弱め

SHINING3D

- 強み**
 - ・トラッキング、ソフトウェアが全体的に強い。
 - ・会社としてISO17025を取得しており、3D スキャナーの品質が高い
- 弱み**
 - ・低価格帯の中では高価
 - ・苦手なサイズ帯を撮るのがかなり難しい。
 - ・マーカートラッキングが弱い

MAF

- 強み**
 - ・低価格帯は中国メーカーがほとんどに対しカナダ企業
 - ・解像度が高く小さいものの3Dスキャンは低価格帯では圧倒的にトップ
- 弱み**
 - ・ソフトウェアの後処理や使用感が弱い
 - ・ワンショットあたりのスキャンスピードが固定機種の中でも遅め

4.3D スキャナーのポストプロセス

3D スキャンデータは点群、またはメッシュデータで出力することができます。購入時には 3D スキャナーの選定だけではなくポストプロセスも念頭に置いて購入しましょう。

3DCG ソフトと 3DCAD ソフトの違い

メッシュデータを扱う際はソフトウェアによって扱いやすさが異なります。特に CG 系ソフトと CAD 系ソフトではメッシュデータの扱いが大きく異なります。3DCG（例：Blender、Maya、3ds Max など）は、ポリゴンメッシュ形式のデータを前提に作られており、3D スキャンで得られるデータをそのまま修正できることが多いです。一方でスキャンデータを CAD で利用する場合、ポリゴンメッシュを NURBS 曲面やソリッドモデルに変換する「逆ジオメトリ化（リバースエンジニアリング）」が必要になります。イメージ的にはワードファイルと PDF ファイルのような関係で CAD からメッシュへの変換は簡単ですが、メッシュから CAD への変換は手間がかかります。最近では 3D スキャナーの普及によりメッシュを取り扱う機能がデフォルトで搭載されているソフトもありますが、一般的に専用のソフトウェアやプラグインを利用することが主流です。業務での 3D スキャナーの納入を検討している方は、そのような専用ソフトも頭に入れつつ予算を組みましょう。

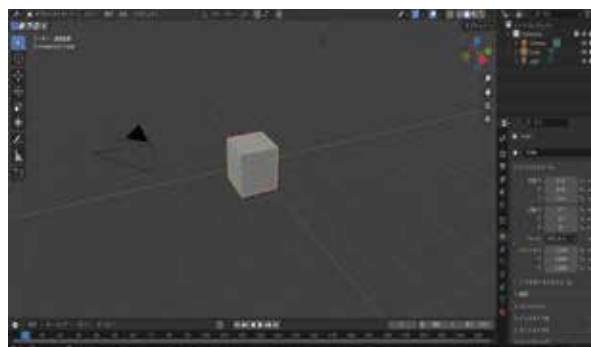
無料で使えるポストプロセスソフトウェア

Blender

無料ながら非常に高機能な 3D モデリング・アニメーションソフトウェアで、スキャナーで得たデータを取り込み、スカルプティングやリトポロジー、テクスチャリングといった高度な加工が行えます。CAD に持っていくまでの位置を整えたり、微修正にも適したソフトウェアです。

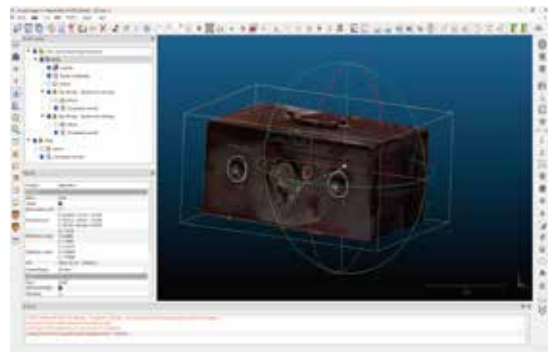
- メリット
- ・ 使用者も多く学習がしやすい。
 - ・ ハイポリゴンでも動作しやすく、テクスチャなどの修正もできる。

- デメリット
- ・ 機能が多すぎて逆に扱いにくい場合がある。



Cloudcompare

オープンソースの点群処理ツールで、ノイズ除去、データのアライメント、比較解析などに優れています。特に点群データのクリーンアップや変化検出に有効です。



メリット 点群データの読み込み、ノイズ除去、アライメント、比較解析など、専門的なツールが充実している。

デメリット 点群解析に強い反面、メッシュの細かな編集やスカルプティング機能は限定的。また、初心者には操作や設定が分かりにくい場合がある。

リバースエンジニアリング用ソフトウェアは必要？

もちろんリバースエンジニアリング用ソフトウェアはあった方が良いものですが、一般的にリバースエンジニアリングソフトウェアは30万円以上し、300万近くするモデルもあります。低価格機種を検討されている方にとっては大きな負担となるでしょう。今回はリバースエンジニアリングソフトウェアを買った方がいいケースをまとめてみました。

必要	あった方がいい	不要
・精密に軸などを出してモデリングが必要な場合 ・スキャンデータから精密なサーフェスの作成が必要なケース ・パーツ全てをモデリングする必要がある場合 ・解像度が高い3Dスキャンデータをそのまま参照にしたい場合	・スキャンデータを参照にして大まかな位置関係を見てモデリングをする場合 ・パーツ全てをリバースしたいが持っているCADに簡易的なリバースエンジニアリング機能がある場合。 ・CADソフトの操作に自信がない	・CGソフトウェアの使用を考えている場合 ・スキャンデータをそのまま使う場合 ・簡単な穴の開けなおし、スムーズ程度の場合

あくまでここに挙げているものは一例ですので、当てはまらない場合や、詳しく聞きたい場合は弊社までお問い合わせください。どのようなリバースエンジニアリングソフトウェアや計測ソフトウェア、ポストプロセスソフトウェアがいいかも含めてご提案いたします。

5. おすすめ低価格 3D スキャナー

EinStar

中型・大型にはコレ！



SHINING3D 社製の EinStar は中型大型に特化した 3D スキャナーです。20cm 以上の物を撮る場合には最も適した機種になります。低価格帯の中ではトラッキング性能が極めて高く、形状再現性も高いです。またフルカラースキャンもできるのでサイズが大きいものであればほぼ全ての用途で使用できます。数年前では 100 万円以上していたモデルとハンディスキャン性能では大差ないレベルです。車や人体の 3D スキャン、大型の遺物などで使用できます。

Matter and Form THREE

ハンディでは撮れないディテールを再現



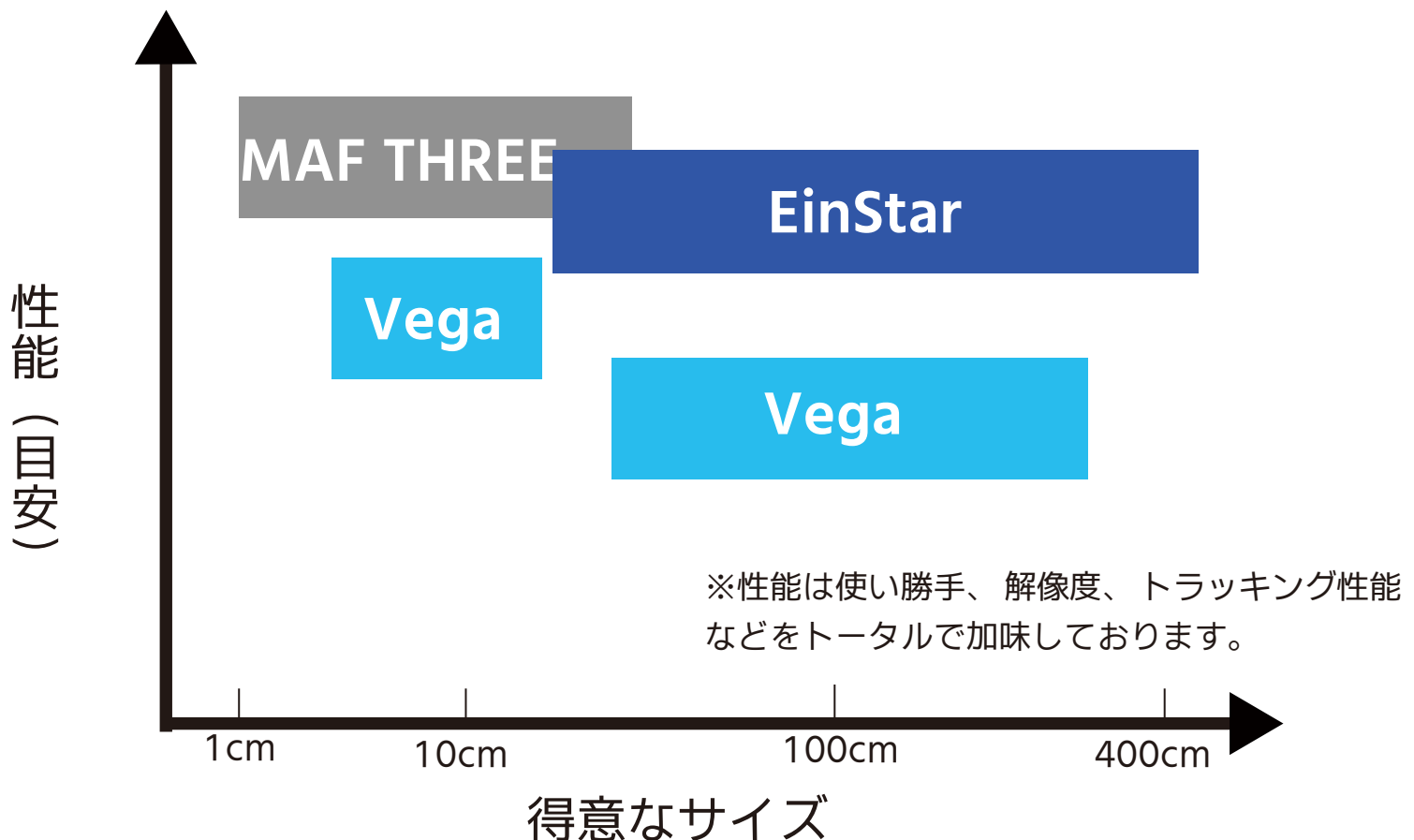
Matter and Form 社の出している THREE はオートフォーカス機能を搭載しためずらしい 3D スキャナーです。ある程度大きなサイズでもスキャン可能ですが、性能を最大限に発揮するのは小さいものをスキャンするときです。コインサイズの物もしっかりディテールを撮ることができるので、ジュエリーや製品設計だけでなく、工業部品のようなエッジの再現度を求めたい場合に低価格帯の中では最も高く再現できる機種です。

EinStar Vega

パソコン要らずのワイヤレス対応！



SHINING3D 社製の EinStarVega はパソコンやスマホがなくても内蔵ディスプレイにより 3D スキャンをすることができます。撮れるサイズも 5cm ～ 20cm くらいまで撮れる HD スキャンモードと、大型のスキャンに適したファストモードで 40cm ～ 2m くらいまでのサイズは問題なくスキャンできます。フルカラースキャンのきれいさも低価格帯の中ではトップクラスで高いので、デジタルアーカイブや CG 用途から工業系まで幅広くスキャンできる汎用性の高いモデルです。一方で小さいものは MAF THREE よりディティールが撮りにくく、大きいものはトラッキング性能が EinStar よりも少し落ちるという汎用性のデメリットがあります。



6. よくある質問：FAQ

黒や光沢は撮れますか？

3D スキャナーは黒色と光沢は苦手とされています。しかしこれは全く取れないというわけではなく黒色の場合は光の吸収率とスキャナーの光源、スキャナーそのものの性能に依存しております。光沢の場合も同じで反射率と光源と性能によってこの辺りは変わってきます。スキャナーごとにこれを判断するのは難しいですが、光源による違いは下記の表にまとめましたのでご確認ください。あくまでこれは一般論で実際はスキャン対象物によって異なるので撮れなかった場合はベビーパウダーなどで表面を白くするか、3D スキャン用のスプレーを使うとよいでしょう。低価格帯機種「黒も撮れます。光沢も撮れます」はほとんどの場合対象物によるので意味がない回答だと思ってもらって構いません。

	レーザー	IR、VCSEL	構造光
黒	得意	やや得意	やや苦手
光沢	やや得意	苦手	苦手

苦手なものはありますか？

3D スキャナーの苦手なものを一覧にしました。あくまで参考となりますので実際の可否に関しては実機デモなどにてご確認ください。

	透明	黒	光沢	薄いもの	細いもの	動くもの	形状が変化するもの	毛
機種ごとの差	どの機種でも不可	機種によっては可	機種によっては可	機種によっては可	機種によっては可	どの機種でも不可	どの機種でも不可	機種によっては可
対策	スプレー	スプレー	スプレー	地面と一緒にスキャンする	細いものの周りに特徴のあるものを配置する	固定して動かないようにする	不可。動かない間に撮る。	帽子を被る。髪を束ねるなど用途に合わせて対策する

購入前に確認すべきことは？

- ・動作パソコンスペック
- ・目的とする対象物が撮れるか
- ・やりたいことを実現できる精度と解像度があるか
- ・ソフトウェアや機械の操作性は良いか
- ・後処理やリバーソフトは必要か
- ・国内サポートはあるか

7. まとめ

■ 自分に最適な 3D スキャナーを選ぶために

3D スキャナー選定の最大のポイントは「目的に合った性能とサイズに対応しているか」です。価格やスペックだけでなく、使用シーンや対象物の大きさ、そしてソフトの扱いやすさを総合的に判断することが成功のカギとなります。

■ 自迷ったら、実機デモ or 相談を！

数値やレビューだけでは判断しきれないのが 3D スキャナー。
「目的の対象物が実際に撮れるか？」が最重要ポイントです。

■ 低価格 3D スキャナー買うなら Seed3D

Seed3D では低価格帯の 3D スキャナーの販売をメインで活動しております。
販売している機種につきましては全てデモを行っておりますのでお気軽にお問い合わせください。また、要求精度に満たない場合は用途に合うスキャナーの提案も行っておりますのでまずはご連絡ください。全ての機種でデモを行っておりますのでお気軽にお問い合わせください。(要予約)



株式会社 Seed3D

〒135-0064

東京都江東区青海 2-5-10

テレコムセンタービル東棟 14 階

☎: 03-4400-6961

Email: info@seed3d.net